



60年にわたりものづくりの現場を

支えてきた実績と信頼の会社

Company Data

株式会社 ツネテクノス

兵庫県神戸市長田区苅藻島町3丁目2-19

URL: <https://tsune-technos.co.jp>

配管工事や金属製品製作・設置、空調機器取付・修理、保温板金工事などを手掛ける『ツネテクノス』。創業より60年の歴史を誇り、長きにわたりものづくりの現場を支えてきた実績と信頼の会社だ。現在は2代目の恒藤社長が事業を牽引し、ものづくりの精神を受け継ぎつつ、積極的に新たなチャレンジも行っている。本日はタレントの野村将希氏が同社を訪問。社長の歩みを交えた事業のお話を伺った。

——本日は半世紀以上にわたり地域に根ざし、ものづくりの現場を支えてきた『ツネテクノス』さんにお邪魔しました！ まずは、御社の沿革と業容から伺います。

当社の創業は1963年。私の父が「恒藤板金工作所」を立ち上げたことが始まりです。創業当初からプラント関連の機械組み立てや配管工事、金属板金工事などを手掛けてきました。当時は今のよう大きな工場はなく、主に現場へ出向いて作業を行っていました。

——そこから自社工場を構え、事業を発展させる中で、実績と信頼を積み重ねてこられたんですね。現在御社ではどのような製作や設置を手掛けておられますか？

主に各種配管製作や機器の搬入、据付、空調設備など小さな部品から、大型の架台製作まで幅広く扱っております。2021年には最新のレーザー溶接機を導入し、より幅広いご要望に応えられるようになりました。

——まさにものづくりの会社ですね。恒藤社長はこれまでどのような人生を歩んでこられたのでしょうか。

中学生のころから「自分の手でお金を稼ぎ

ながらの職人肌の人でした。仕事の完成度をとことん追求する姿勢を、本当にすごいと思っていました。その分、私の経営観とは異なる部分も多く、仕事の話になると親子でなかなか意見が折り合わず、深夜まで話し込むことも少なくありませんでした。ある時期までは、父の思いを尊重しつつも、自分の考えも取り入れながら頑張ってきたつもりです。最後のほうには、父も安心して任せてくれるようになり、その時はとても嬉しかったです。

——お互いの経営観を話し合うことで切磋琢磨できた部分もあったのでしょうか。現在、社長自身はどのような会社を築いておられますか。

私はスタッフとの間になるべく壁を作らないように努めています。どのスタッフとも自然にフランクに話をしますし、一緒に飲みに行くこともあります。実は昨日（取材時・2024年12月末）も、スタッフ

たい」という思いが強く、中学卒業後は夜間高校に通いながら働き始めました。最初は父のもとでしばらく働き、その後は様々な仕事に従事しました。特に看板屋で勤めていた時期は、仕事のノウハウや想像力を養うことができ、貴重な経験を積むことができたと思います。

——色んな業界で経験を積まれたんですね。家業に入られたのはいつごろで？

父が年齢的に続けるのが厳しくなってきたことから、28歳で家業に入りました。そして父と共に励み、代を継いだのが2004年、38歳のころです。そのタイミングで会社を法人化し、2018年には現在の「ツネテクノス」に社名変更しています。父は93歳まで長生きしてくれ、私が会社を継いだことをとても喜んでくれていました。私自身、この仕事に大きなやりがいを感じながら取り組むことができ、この道を選んで本当に良かったと思っています。

——親孝行をされましたね。お父様の背中から学ばれたことも多かったのでは？

ええ。振り返ると、若いころから父の背中を見て励んできたと思います。私が経営者としての視点を持つのに対して、父は昔

や応援で来てくれていた方々も合わせて総勢25人で忘年会をしました。コロナ禍以前は、スタッフのご家族を招いてバーベキューを楽しむこともありました。スタッフ同士の親睦は大切ですね。仕事と遊びのメリハリをつけてコミュニケーションを取るようにしています。

——素敵なご関係ですね。スタッフさんの年齢層はどのような感じなのでしょう？

自分より年配の方や同い年のスタッフ、あとは若い子を中心となっていて、特に30代が多いですね。また20代のベトナム人実習生が5人います。3月にはさらに3人増えて賑やかになりますね。

——活気がありますね。ファミリー感の強い御社でしたら、世代も国籍も関係なく仲が良くいでしょうね。

ええ。みんなとても仲が良いです。ベトナムの実習生たちも日本のスタッフも、屈託なくコミュニケーションを取っています。実習生の中には「ずっと日本で働きたい」と言ってくれる子もいて、それを聞くと本当に嬉しいです。将来的には、ベトナムに支社を設立することも一つの青写真として考えています。

——将来がますます楽しみです。最後に、今後の展望をお願いします。

創業者である父や、これまで当社を支えてきた先輩職人たちが技術を高め、研鑽を重ねてきた結果、今日の当社があります。ここに息づくものづくりの精神を私の代でもしっかりと受け継ぎ、さらに次の世代へと繋いでいきたいと考えています。また、当社は2022年に銀イオンコーティング事業を新たに立ち上げ、違う分野にも取り組み始めました。こうした新しいチャレンジも積極的にを行い、会社全体としてさらなる成長を目指していきたいと思っています。

Column 頼もしきスタッフたちの成長と、和気藹々とした会社の魅力

▼時代の変化とともに、職人にもコミュニケーション能力が求められるようになった。『ツネテクノス』でも、かつてのような職人肌のスタッフは少なくなり、現在では人当たりの良い職人たちが多くを占めている。お客様との会話がスムーズで、高度な機械を自在に操る頼もしきスタッフたちだ。人材がこのまま順調に育てば、近い将来、若い世代に権限を渡していきたいと恒藤社長は考えている。自らは営業として受注を支える一方で、現場の最前線はスタッフたちに任せていくというのが今描

いている構想の一つだ。

▼社長は「人との出会いこそが財産です」と語る。頼もしきスタッフたちとの出会いに恵まれ、ベトナムからの技能実習生たちとも良好な関係を築いている。人生において、地球上で会う人の数はごくわずかだと思う。趣味のゴルフを楽しんだり、大好きなお酒を飲んだりしながら、人との出会いを楽しみにしている。また出会った人一人ひとりを大切にしてい——そんな信念を胸に、社長はこれからも前へと進み続ける。

After the Interview

「事業に対してそれぞれ違った価値観を持っていた恒藤社長と先代であるお父様。しかし社長とお父様はそこで衝突して険悪になるのではなく、自分たちの意見を議論して高め合うといったスタイルで、お互いへのリスペクトを欠かさない関係性が素晴らしいと感じました。社長は代を継いだ後もお父様や先人たちが培ってきた精神や姿勢を大事にされており、後進の方々にもそうした姿勢を引き継いでほしいと思いましたよ！」

野村 将希：談

